

CAMPUS 八戸学院

vol.65

3年ぶりの修学旅行

「八戸学院冬物語」



八戸学院大学で大島前衆院議長が講義を担当
創造力を持って挑戦を



講義は約 300 名の学生が聴講

八戸学院大学の「地域文化論」において、前衆院議長の大島理森氏による講義が行われました。大島氏は、縄文時代から現在までの日本や青森県の歴史を踏まえながら日本の転換期を説明。「人間が社会に働きかけて何かを作り出すことが創造力であり、文化だと思う。そういう意味では、政治も文化の一つ」と述べ、自身の政治経験を語りました。

また、地球環境やロシアのウクライナ侵攻にも触れ「時代は大きく変わろうとしている。新しい時代の流れに創造力を持って挑戦し、新しい文化をつくってほしい」と学生に呼びかけました。

CONTENTS

- 3 八戸学院大学で大島前衆院議長が講義を担当
創造力を持って挑戦を
- 4 3年ぶりの修学旅行
- 6 行政機関×高等教育機関 階上町
- 8 八戸学院スポーツ局主催
八戸学院スポーツチャレンジ2022
八戸学院スポーツクリニック2022
- 10 研究室訪問
言語と異文化理解が世界をつなぐ
- 12 「八戸学院冬物語」
- 14 八戸学院 TOPICS
- 16 ステラが行く
- 17 ステラ・フォーカス
- 18 理事長散策

光星高 公式キャラクターに採用



青森県をエリアとする国際ロータリー第2830地区で行われたキャラクターデザインコンクールにおいて、八戸学院光星高等学校のインターアクトクラブが作成したデザインが最優秀賞に輝きました。

「そのキャラクターに出会ったとき、子どもも大人も、誰もが笑顔になる」をコンセプトに、少しあどけない表情や着用しているタキシード・帽子が日ごろお世話になっているロータリアンの方々の優しさや品格を表したものになっています。

このデザインは、2023 年～2024 年の国際ロータリー第2830 地区の公式キャラクターとして使用されます。



CAMPUS
八戸学院

vol.65



表紙
想像力や表現力など、様々な力を伸ばす絵画。八戸学院第二しのめ幼稚園の子どもたちは、絵を描くことが大好きです。今年度も、多くの絵画コンクールに入選しました。

建学の精神
「神を敬し、人を愛する」
カトリックの精神に則る道徳教育を施し、高尚なる人格の完成を期し、現代社会が要請する有為の人材を育成することをもって目的とする。（寄附行為 第3条）

- 八戸学院大学
TEL 0178-25-2711
- 八戸学院大学短期大学部
TEL 0178-25-4411
- 八戸学院地域連携研究センター
TEL 0178-25-2789
- 八戸学院図書館
TEL 0178-30-1695
- 八戸学院光星高等学校
TEL 0178-33-4151
- 八戸学院野辺地西高等学校
TEL 0175-64-4166
- 八戸学院幼稚園
TEL 0178-34-5765
- 八戸学院聖アンナ幼稚園
TEL 0178-45-3670
- 八戸学院第二しのめ幼稚園
TEL 0178-25-2488

<https://kosei.hachinohe-u.ac.jp/>

【野辺地西高校編】

11/28(月) 清水寺
11/29(火) 京都(班別自主研修)
11/30(水) 姫路城=平岡農園=神戸南京町散策
12/ 1(木) ユニバーサルスタジオジャパン
12/ 2(金) カップヌードルミュージアム



見上げたもんだぜ姫路城



世界に一つだけのカップラーメンが完成



平岡農園でのみかん狩り あま〜い!

新型コロナウイルス感染症拡大により、実施が心配されましたが、事前準備を十分に整えたこともあって感染者が出ることなく無事に4泊5日の日程を終了することができました。

京都では、各グループに分かれての自主研修となり、事前に計画していたコースを周って京都の歴史や文化・街並みを楽しみました。

ユニバーサルスタジオジャパンでは、期間限定のアトラクションをはじめ、様々なアトラクションを楽しみました。

行事が延期・中止となることが多い中、高校生活の思い出の1ページを刻むことができた修学旅行となり、本当に良かったと思います。



3年ぶりの修学旅行

【光星高校編】



修学旅行出発前に行われた結団式では、新生徒会長の佐々木凜君が「この旅行を通して、集団行動で学習する意義を理解し、友達との思い出づくりを楽しみたい。修学旅行実施に向けて尽力していただいた方々への感謝の気持ちを忘れず、最高の修学旅行にしたい」と述べました。



世界遺産の枯山水庭園



12/19(月) 清水寺
12/20(火) 京都(班別自主研修)
12/21(水) 金閣寺=嵐山=なんばグランド花月
12/22(木) ユニバーサルスタジオジャパン
12/23(金) 天保山:海遊館



自主研修で女子に人気だった着物体験

普通科スポーツ科学コースは沖縄へ!!【1/16~1/20】



スキューバダイビングを体験してPADIのダイビングライセンス(Cカード)の取得に挑戦

行政機関



高等教育機関

階上町



町長 荒谷 憲輝

1970(昭和45)年生まれ
1987(昭和62)年 仙台工科専門学校卒業
2015(平成27)年 階上町議会議員(2期)
2021(令和3)年 階上町長

「階上町と八戸学院大学とのつながり」
階上町と八戸学院大学とは、八戸大学の時代から幅広い分野でつながりがあり、最初に連携した取組は、「生涯学習事業」であると思います。当町の生涯学習事業は、平成6年度に開催した生涯学習まちづくり推進本部での研修会において、八戸大学から「生涯学習と行政の関わり」について講演いただいたことからスタートしました。その後も多くの御支援や御協力をいただきながら、令和2年度には町制施行40周年記念事業として「生涯学習元気まちフォーラム」を開催し、町民への情報発信を行いました。今後も学習活動を通して生涯学習の視点から町民自身が輝けるまちづくりを推進していきたいと考えております。

「連携協定がもたらしてくれたもの」
平成25年3月19日に八戸大学(現八戸学院大学)と連携協力に関する協定書を結び、健康レシビの作成やジェラートの開発、イベントの企画・運営などを実施してきましたが、平成27年3月26日には、八戸学院大学、八戸学院短期大学(現八戸学院大学短期大学部)と新たに連携協力に関する協定を締結しました。協定では、それぞれの保有するまちづくり、健康づくり及びスポーツに関する情報、ノウハウ等を用いて相互に協力して、生涯学習の推進と地域住民の健康増進、スポーツ活性化による社会発展に貢献するなど、幅広い分野で連携することとしております。

康学部(現健康医療学部)熊谷ゼミにおいて、壮年期死亡の減少、健康寿命の延伸及び生活の質(QOL)の向上を目的に、階上岳の活用を提案をしていただき、「自然を使った健康増進活動」(階上岳散策の効果)の調査を行っております。調査方法は、階上岳8合目の大開平から頂上まで標高差112mを往復約1時間かけてのウォーキング前後、自律神経活動の指標として「血圧・心拍数測定」を、精神的ストレスの指標として「唾液アミラーゼ活性測定」と「心理的ストレス反応測定尺度」の計3種類を、座位で測定しました。測定の結果、すべての数値がほぼ優位に低下しており、階上岳散策は年齢に関係なくストレス軽減効果があったと結論付けられております。今後は、ロコモティブ



学生が参加した健康ウォーキング



八戸学院大学短期大学部ダンスサークルによるステージ

ライブやダンス、着ぐるみショーなど学生の皆さんからスタッフ・出演者として参加していただいております。その他にも、町のPR活動におけるポスターやパネル作製、防犯・交通安全少年球技大会やスポーツイベント、読み聞かせへのボランティアとしての協力、まち・ひと・しごと創生有識者会議をはじめ各種審議会への委員としての参画等、これまでそれぞれの分野で連携してきた実績を、大学・短大から連携していただいた人数で表すと延べ1100人を超える方々が尽力していただいております。このような取組によ



八戸学院大学短期大学部幼児保育学科の学生による読み聞かせ

り、大学短大から多くの「人財」と「知識」をもたらされたことによって、当地域においても学生の若い活力によるまちの魅力向上や若者のまちづくり参画につながったと感じております。

「デジタルによる地方創生と大学への期待」

現在、人口減少社会を迎え、地方の過疎化や地域産業の衰退などの大きな課題に加え、近年はテレワークの普及や若年層の地方移住への関心が高まるなど、社会情勢は大きく変化しています。また、デジタル技術は急速に進歩し、人々の生活に広く活用される段階に移行しつつあります。

国では、これまでの地方創生の取組にデジタルの力を活用して加速させ、デジタル田園都市国家構想が掲げる「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指し、国と地方が役割を分担しながら、東京圏への過度な一極集中を是正して多極化を図り、地方の社会課題解決を成長の原動力とし、地方から全国へとポトムアップにつなげることをしております。

当町においても、デジタル田園都市国家構想を実現するために、それぞれの地域が抱える社会課題などを踏まえて、地域の個性や魅力を生かす地域ビジョンを掲げた新たな地方版総合戦略を策定し、



八戸学院大学教員によるアブラメブランド化のワーキング

地域ビジョンの実現に向け取り組んでいきたいと考えております。
八戸学院大学及び八戸学院大学短期大学部の皆様におかれましては、引き続き県南地域の高等教育機関として、地方の未来を創る人材の育成にとどまらず、デジタル化の進展に対応した地域社会の構築のために、町と大学とが持つ「人財」と「知識」を活用できるよう連携を密にし、地域課題の発見と解決支援に取り組んでいただくことを期待するとともに、今後とも町政へのより一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。



運動基礎教室:蹴る

サッカーボールを使ってインサイドキックの練習をしたあと、1分間に何本のカラーコーンを倒すことができるか挑戦しました。



運動基礎教室:跳ぶ

リズムカルに跳ぶためのステップワークを練習した後、障害物コースに挑戦。障害物をテンポ良く飛び越えた参加者は、最後にポーズ決めてゴールできました。



ボルダリング教室

八戸学院トレーニングセンターに設置されているボルダリングウォールを使用して、基礎的な動きを体験しました。

運動基礎教室:投げる

まずは、紙鉄砲で投げ方の練習。紙鉄砲がはじめての参加者が多く、大きな音にビックリしていました。最後はストラックアウトに挑戦。うまく的に当てることができました。



運動基礎教室:捕る

高く上げたボール、横から投げたボールを捕ることに挑戦。ラグビーボールは捕ることが難しく、はじめは戸惑っていた参加者も最後は上手に捕ることができました。



かけっこ教室

早く走るために、足の運び方や正しいフォームを指導。最後は大学陸上競技部の選手と一緒に、鬼ごっこをして速く走れることを実感しました。



八戸学院スポーツ局主催 八戸学院スポーツチャレンジ2022／八戸学院スポーツクリニック2022

今年度は、運動初心者向けに運動することの楽しさを体験できる場として、八戸学院スポーツチャレンジを開催。「かけっこ」「運動基礎」「ボルダリング」の教室を実施しました。また、八戸学院スポーツクリニックでは、パフォーマンスの向上、思考力の向上、そして、人間力の向上を図ることを目的に「野球」「サッカー」「陸上競技」を実施し、多くの小・中学生が参加しました。



野球クリニック

八戸学院室内練習場で開催した野球クリニックは、投球・打撃フォーム、捕球動作について指導。参加者は、大学硬式野球部の選手約20名と一緒に練習に励みました。



陸上競技クリニック

大学陸上競技部が指導を担当した中学生対象の陸上競技クリニック。オフシーズンのトレーニング方法や正しい姿勢・身体の使い方を中心に指導しました。



サッカークリニック

大学の男女サッカー部の選手と参加者が一緒にプレー。専門技術だけではなく、思考力を高めるためのトレーニングを実施しました。



野球クリニック

野球クリニックには、中日ドラゴンズ育成1位で指名された松山晋也選手も参加。最後は一緒に記念撮影！



サッカークリニック

平日の夕方に開催されたサッカークリニックは、人工芝グラウンドで開催。気温が低い日もありましたが、参加者は元気いっぱい。最後に笑顔で記念撮影が行われました。



でもらえるのかを模索する日々です。

在学中の4年間または2年間で、日本語能力試験（JLPT）に合格することはもちろん、聞く、話す、書く、読むの4つの技能、すなわち実用的な日本語を身につけてもらう指導もしなければなりません。日本で生活していく中では、この4つの技能のマスターは想像以上に大切です。私の授業では日本人の日常生活や伝統文化、風習などをよりよく理解していただけるように、留学生の出身国の言語や風習と比較しながら、実際に言語を使用する場面に合わせて、4つの技能をマスターできるように配慮しています。

■やさしい日本語

日本語非母語話者とスムーズにコミュニケーションをとるために、彼らに最低限の日本語の習得を求めると同時に、日本語母語話者側も自分の考えが相手に伝わるように努める必要があると近年の研究で明らかになりました（庵功雄2015）。その調整過程に共通言語として成立するのは「やさしい日本語」です（庵功雄2015：7）。調査によると、「やさしい日本語」は8割以上の外国人とスムーズにコミュニケーションを取れる重要な言語形式です（出入国在留管理庁・文化庁2020）。したがって、「やさしい日本語」は多文化共生社会を目指す日本において、国の将来にかかわる重要な政策課題でもあります。

2020年に学校法人光星学院のイノベーションプログラム（基金）の研究等補助金をいただき、日本へ留学する予定の77名の学生に対して「来日中に困りそうなこと」についてアンケート調査を行いました。そのうちの48名は「病院」であるとの回答でした（楊・安田2020）（当論文は2020年、公益財団法人青森学術文化振興財団の懸賞論文において奨励賞を受賞しました）。つまり、病院で

スムーズにコミュニケーションを取れるかどうかを心配している人が多数であることがわかりました。このような状況の中、「やさしい日本語」について調査を行ったところ「やさしい日本語」への取り組みと研究の歴史は浅く、特に医療者のためのやさしい日本語に関する論考や教材は極めて少ないことがわかりました。このような経緯で、2022年から本学と他大学の看護専門家、言語専門家と連携・協力し、外国人診療現場において、「言葉の壁」と「異文化の壁」による意思疎通の問題に関する研究を行ってきました。その成果として、「QRコンテンツ」による医療者向けの会話と異文化異理解の『やさしい日本語』の教材開発」という研究テーマで科学研究費（基盤研究(C)（一般、課題番号：18K00823、研究機関（年度）：2022・2025））に採択されました。

■尊重しあう異文化

来日26年間、外国人である私は日本の文化に慣れつつも、日常的な些細な文化や習慣の違いに戸惑うことが多々あります。異文化の違いから生じる誤解は不要なトラブルを招く原因となりがねません。そのトラブルを減らすために、文化摩擦しながらも共存していかなければならないのが今の社会です。

私が担当している中国文化の科目では、相手の国の文化、そして習慣を理解しながら円滑にコミュニケーションを取れることを学習目標として設定しています。中国の歴史、文化、風習の相違を理論的に教えるだけではなく、中国の茶芸、太極拳、書道、漢服の試着などを通して、異文化を肌で感じ、目で確かめることを心掛けてきました。さらに、より身近に異文化体験をしてもらうために、毎年中国の大学生とオンライン交流を行っています。このような活動を通して、お互い



八戸国際交流フェスタ 中国ブース(2019年)



西安外国語大学とオンライン交流(2022年)



中国文化 書道の体験(2022年)



中国文化 茶道の体験(2022年)



中国文化 気功「八段錦」の体験(2022年)

言語と異文化理解が世界をつなぐ

国際社会や地域との共存・協力を実現するには多くの手段があると考えられますが、その中で最も重要なのは、言語によるコミュニケーションを取ることではないでしょうか。手振りや身振りだけでもコミュニケーションを取ることは可能ですが、人間のきめ細やかな感情を伝えたい時には、言語によるコミュニケーションが不可欠となります。また、異文化の違いから生じる誤解を減らすためにも言語は重要な担い手となるでしょう。多文化共生社会が進むいま、相手の言葉に興味を持ち、多様な価値観をできる限り許容しながら生活していくことが必要だと私は信じております。

■おもしろい言語学

博士後期課程在籍中から主に言語学について研究を行ってきました。その中で特に中国語の結果構文について研究を深めてきました。結果構文（私の研究では「動結式」と呼ぶ）とは、ある行為の結果として、何らかの状態変化が生じることを表す構文です。この構文は中国語だけではなく、日本語や英語でも観察され、外国語学習者にとっては非常にマスターしにくい構文の一つです。



八戸学院地域連携研究センター

准教授 楊麗栄

新潟大学大学院現代社会文化研究科
共生文化専攻博士後期課程修了
2018年4月から八戸学院地域連携
研究センターに勤務
2019年4月から学校法人光星学院
国際教育局副局長兼務
研究テーマ 中国語学、日本語学、教材開発、
異文化理解・異文化コミュニ
ケーション
担当科目 海外事情(中国文化)、
留学生のための日本語

(1) 我们踢赢了球。
（私たちはサッカーをして勝った。）
(2) 我们踢破了球。
（私たちがサッカーをしていたら、サッカーボールが破れた。）
(3) 我们踢完了球。
（私たちはサッカーをし終わった。）
(6) (8)：周国光 2006：46
(1) (3)は動作が行った主体はすべて「我们（われわれ）」であり、動補構造（動詞＋補語）は踢（蹴る） 赢（勝つ）、「踢（蹴る） 破（破れる）」、「踢（蹴る） 完（終わる）」にあたります。しかし、興味深いことに補語「赢（勝つ）」、「破（破れる）」、「完（終わる）」は文中のそれぞれ違う対象を説明しています。(1)の補語「赢（勝つ）」は主格の「我们（われわれ）」、(2)の補語「破（破れる）」は目的格の「球（ボール）」、(3)の補語「完（終わる）」は前項述語の「踢（蹴る）」の状態を説明しています。一方、(1) (3)の日本語訳を観察するとわかるように、(3)のみは「動詞＋補語」（し終わる）の形式をとり、(1) (2)は複文を使い、動作、動作の様態と主体の間柄を表現していることがわかります。

■留学生の日本語

2021年3月末の出入国在留管理庁の統計によると、日本に在留している外国人は約277万人であることがわかります。本学の留学生受け入れは2019年からスタートし、この数年間で在籍する留学生は確実に増えてきました。一方、受け入れをめぐって、多くの課題にも直面しています。例えば、日本語教育の在り方と異文化による摩擦があげられます。いかに留学生の日本語コミュニケーション能力を向上させ、授業を理解してもらえるのか、また、いかに居心地よく地域住民に溶け込んで生活し

サテライトキャンパス(八戸市美術館)
一般市民による中国語講座

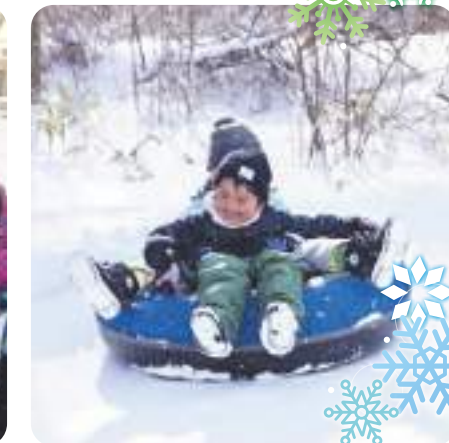
このように同じ意味を表すものの、面白いことに言語によって表現の仕方は多種多様です。母語干渉があるため、違和感のある非文が作られてしまうことが多々あります。このような問題点を常に意識しながら、授業と研究に取り組んでいます。

本学で行われる留学生の日本語教育や日本人学生の中国語勉強会、またサテライトキャンパスを利用して市民向けの中国語講座でもこのような問題点を意識しながら、指導してきました。

八戸学院聖アンナ幼稚園の雪遊び in 美保野キャンパス



八戸学院第二しののめ幼稚園の雪遊び in 種差少年自然の家



「八戸学院冬物語」

八戸学院大学の講義「スキー」 in 安比高原スキー場



八戸学院野辺地西高校のスケート教室 in ふくちアイスアリーナ



光星高 野西高 合格おめでとう！～夢に向かって～

●ジョン・レゲーロ・ペロニア君（光星）【早稲田大学 合格】

私は将来、国際線のパイロットになることを目指し、早稲田大学国際教養学部を受験しました。英検1級を受検した時のことを思い出しながら英作文の勉強をし、ALTのエティエン先生に添削指導をしてもらいました。

大学入学後は、7つの学問分野を横断的に学びながら幅広い知識や考え方を身に付けたいと考えています。また2年次では、海外留学をし、新しい環境に対応する異文化対応力を養い、現地の人々の考え方や行動に理解を示したり、尊重したりしながら自分自身と向き合っていきたいと考えています。

そして将来は、多くの文化や価値観を理解し、人の心に寄り添うことができるような国際線のパイロットになりたいです。



●澤田煌希君（野辺地西）【東京学芸大学 合格】

私は、1年生の冬に志望大学を決め、「準備」、「人を巻き込む」、「自分を信じる」の三つのことを意識して生活してきました。

一つ目は、自分に合った選抜方法を選択するためです。二つ目は、多くの先生方に相談に乗っていただいたり、小論文や面接を指導していただきました。三つ目は、今日まで努力してきた自分を信じ、自信を持って試験に挑みました。

両親、先生方をはじめ、多くの方々に支えられ、感謝の気持ちでいっぱいです。また、“合格”という結果で恩返しできことをとても嬉しく思っています。本当にありがとうございました。



野西高 松山選手母校で後輩にエール

本校の卒業生で「2022年プロ野球ドラフト会議」中日ドラゴンズに育成1位に指名された松山晋也選手（八戸学院大学4年）の講演会が行われました。

講演会で松山選手は、「目標や夢を持ち、あきらめないことで実現できた。また、多くの人の支えがあって夢を実現できた。皆さんも自分の目標を持ち、それを言葉に表してほしい」と全校生徒にエールを送り、プロ野球選手として活躍することを力強く誓いました。これに先立ち、当時硬式野球部監督の寺嶋恭祐先生から、「自分を見つめ直す意味で2年生の頃からトイレ掃除に取り組んでいた。」というエピソードが披露されました。

講演後、野球部員たちとも交流、部員たちから『体を大きくする方法』を問われた松山選手は、「しっかり食べて」と微笑みながら丁寧に答えていました。



野西高 「令和4年度御下賜金記念 産業教育功労者」受賞

令和4年度御下賜金記念「産業教育功労者」の伝達式が11月18日（金）にあり、本校の校長補佐 齋藤 弘実 先生が表彰されました。これは、県内の実業高校における教職員の長年の功績を顕彰するもので、齋藤先生は多年に渡り職業教育において生徒の指導にあたり、多くの人材を社会に送り出した功績を認められたものです。

齋藤先生の益々のご活躍を祈念しております。

大 学 大木ゼミ(3年生)が市長賞を受賞

健康医療学部人間健康学科大木ゼミの3年生が、「令和4年度八戸市学生&高校生まちづくり助成金コンペティション」で市長賞を受賞しました。

当ゼミは、「三八圏域における知的・精神・発達障がいのある人による社会参画の促進」をテーマに、中心街を彩るまちづくりによる地域貢献と、知的・精神・発達障がいのあるへの地域理解への働きかけ」を目的とする事業を实践。当事者の方々と学生で話し合い、青森県の名産からオブジェの題材を決定し、展示会を開催しました。

熊谷市長からは、「地域の問題解決に向けた取り組みと、さまざまな連携との協働による実践が評価できる」と講評をいただきました。



大 学 ラグビー部が『UNIVAS AWARDS』優秀賞を受賞



大学スポーツ全体の活性化に繋げることを目的に毎年開催されている「UNIVAS AWARDS 2022-23」で、ラグビー部が取組んだ「八戸学院大学 DC CONLINE for TEAM（デュアルキャリア支援セミナー）」がマイナビ賞「人材育成支援に関する優秀取組賞」で優秀賞を受賞しました。

ラグビー部では、人間力生成を学ぶ講義を受け、各講義ごとのテーマに沿った課題に取り組み、決定したプランを日々の部活動で実践することで自己力の向上を目指しました。今年度は143件の応募があり、一次審査、二次審査、最終審査を経て受賞しました。3月に東京で表彰式が行われます。

光星高 悲願の全国の壁を突破！～ウィンターカップを終えて～

男子バスケットボール部は、東京体育館で1回戦を戦いました。試合は、相手にリードを許し苦しい展開が続きましたが、終了ブザーと同時に決勝点を決め、2回戦に進出。2回戦は、逆転負けという形になったものの、全国大会で初勝利を収めることができました。応援してくれた全ての方に感謝しています。ありがとうございました。



私たちは、3年ぶりにウィンターカップに出場することが出来ました。全国のレベルの高さ、会場の雰囲気を感じました。結果は惜しくも敗れましたが、3年間ともに切磋琢磨してきた仲間と夢の舞台で試合が出来、一生忘れられない最高の思い出となりました。



八戸学院第二しのめ幼稚園

初!! 全園児でミニオペレッタ「夢の色ってどんな色？」

今回のお遊戯会では、全園児で初めてミニオペレッタに取り組んでみました。「先生！これ楽しい！」と音楽に合わせノリノリに踊る子どもたち。全園児がホールに集まり練習する姿は、普段のクラス活動では見られない発見がありました。



本番では、年長組が年少組の手を取り一緒に退場してくれたり、年中組は「○○君の動きカッコイイ」と真似して表現する姿が舞台裏でもみられました。満3歳児クラスは初めてのステー

ジ。お兄さんやお姉さんと一緒に最後まで堂々と演技を楽しんでいました。

自分のことだけでなく、お友だちのことも考えて行動し、みんなで一致団結して可愛いミニオペレッタをつくり上げることができました。



ステラ・フォーカス



八戸学院3幼稚園
マスコットキャラ
ステラが行く

vol.16

八戸学院幼稚園

家庭教育学級の試み

「性教育からのちの教育へ」

幼稚園の活動のひとつに、PTAと連携した家庭教育学級があります。ここでは、今年八戸学院幼稚園で実施した家庭教育学級「性教育における家庭（親）の役割」について報告します。

家庭教育学級の目的は、家庭の教育力の向上と家庭・学校・地域の連携強化とされますが、実際にはそこで保護者が集い、情報を共有したり、子育てのストレスを発散したりする役割も大きいとされます。そうした意味でテーマの自由度は高いわけですが、今年はある「性教育」というとても「真面目」な内容を選びました。年度初めにPTAの役員と相談している際にその話題が出たことがきっかけですが、園として大切にしたい「いのちの教育」と密接に関連する内容であること、そして講師に「当てる」があ

ることが大きな理由でした。幸い、勝手に期待を寄せさせていただいた八戸学院大学看護学科長の高橋雪子先生にご快諾いただき、無事実現の運びとなりました。家庭教育学級は8月に実施され、講義終了後の質疑応答が大変盛り上がったことから、11月に行われたPTA活動「ママCafé（ママ達集いのお話・相談カフェ）」にも保護者のリクエストで高橋先生をお呼びし、こちらも大好評でした。なお、8月の講座については保護者向けにYouTube配信も行っています。

8月の講座の前に寄せられた質問事項を見ると、将来子どもにどのような性について伝えたいのかという不安を抱えている方と、現在子どもが性器いじりに悩んでいるという方の二通りがありました。前者については、高橋先生が事前に保護者に向けたお便りに書いてくださったように、今の日本の性教育が「子どもたちの成長や環境に合っていない」ためだと思っています。日本の性教育が遅れていることは以前から指摘されていますが、インターネットの普及等によって、そのズレがますます大きくなったのでしよう。講座の内容を詳しくお伝えはできませんが、高橋先生ご自身が小中学校



8月27日家庭教育学級

や高校で実施されている性教育の内容を伝えていただくことで、保護者には先々への見通しが得られ、安心感につながったように思われます。私自身も「目から鱗」のような思いがしました。フォローアップのお便りに書かれた、パパやママ、教員にもプライバシーはある（体と同じく体験にもプライベートゾーンがある）、だから子どもからの質問に正直に何も

かも答える必要はないというお話も心に残っています。一方、後者の保護者にとって切実な悩みについては、心配不要であることと具体的な対処方法を分かりやすく伝えてくださったので、幼稚園の保育者とも共有させていただきました。ママカフェの方は、故日野原重明医師の「いのちは時間」ということばで一番盛り上がったそうです。それを伺って、まさに性は「いのち」につながる問題だと実感しました。八戸学院大学では次年度「別科助産専攻」もスタートします。これからも大学・短大と連携して、幼稚園の「いのちの教育」を推進したいと思っています。



寄贈いただいた図書（一部貸し出し中）

八戸学院幼稚園

みんなで一緒に「クリスマスお遊戯会」

今年度のクリスマスお遊戯会は星の子シアターの関係により当初の予定を変更し、12月24日のクリスマス・イヴに実施しました。そしてもうひとつ例年と違ったのは、いままで別に開催していた保育クラスも参加して実施したことでした。例年同様に園児数の関係で教育クラスは各学年ともクラスの半数ずつ参加しての2部制、保育クラスは全員午前の部への参加となりました。

オープニングはつくしクラスの合唱で「きらきらぼし」、一生懸命練習をした成果もあって大きな声で唄っていました。その後のお遊戯は「おにぎりぼん!」、元気っぱいの踊りに観客席からたくさんの拍手が送られていました。終了後は会場後ろからサンタクロースが登場、記念

写真を撮影しプレゼントをもらって嬉しそうにつくしクラスの皆さんでした。

今年度は運動会も全園児で実施したこともあり、今後も様々な行事でお兄さんやお姉さんたちとの交流が生まれることを期待しています。



記念撮影（2歳児：つばみクラス）

八戸学院聖アンナ幼稚園

彩もにぎやかな餅つき会

3学期、お正月の体験を口々に話してくれる子どもたちは、伝統行事である餅つき会を楽しみました。

臼と杵でついた真っ白なお餅でまずは鏡餅づくり。教員が目前で大きな鏡餅の形を整えていく様子を興味深く見学しました。上に飾る橙と緑の葉のコントラストも鮮やかです。



次は白い餅と食紅で赤く色付けた餅を小さくちぎって「餅花」作り

を経験しました。昔から小正月に五穀豊穡を願い飾る風習のある餅花。「今年もおいしいご飯が食べられますように」感謝と願いを込めて作りました。ミズキの枝にちぎった餅を巻き付ける様子は真剣そのものです。でも、表情は和やかで幸せを感じる時間でした。



to receive a visitor
2022

理事長
散策

法官新一
Shinichi Hogan



八学大ラグビー部



光星高バスケットボール部(男女)



八学大女子バスケットボール部

2022年もたくさんの学生・生徒の
皆さんが会いにきてくれました。
コロナに負けず、活躍する姿に元気と
勇気をもらいました。
ありがとう!



八学大男子サッカー部



光星高硬式野球部



八学大自転車競技部



秋山選手のゴールデングラブ賞のトロフィーとスパイク



プロ野球で
活躍する選手の…

学生・生徒が訪れる部屋には、
本学卒業生でプロ野球の秋山
省吾選手のバットやスパイク
など、貴重な品が飾られてい
ます。



八短大介護福祉学科(留学生挨拶)



八短大幼児保育学科(ゼミナール活動報告)



八戸学院幼稚園

陽だまりの中の「図書コーナー」



昼の図書コーナーも設置

本園の図書コーナーは園舎中部ホール前の南側に設置されていて、日中は陽の光が降り注ぐ、とても明るいスペースです。

その図書コーナーには、日本の昔話や世界の童話の絵本、植物や動物などを紹介する自然科学の絵本、そのほか文字や数字を学習する書籍など、常時700冊ほどを配架しています。

登園後すぐに駆け付ける園児もいるなど、子どもたちにとっては陽だまりの中での読書が、園での楽しみの一つとなっています。

八戸学院幼稚園

